

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32719

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K13925

研究課題名（和文）外国人に焦点をあてた医療制度改革の人権評価

研究課題名（英文）Economic and Human Rights Evaluation of Health Care Reform Impact on Foreigners in Japan

研究代表者

松浦 広明 (Matsuura, Hiroaki)

松蔭大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：60751914

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本プロジェクトは、移民、難民、観光客など様々な集団を含む「外国人」への影響に焦点をあてた医療制度改革の人権評価に関するものであった。プロジェクト期間が、世界的な新型コロナウイルスの流行と重なったことから、本来の医療制度改革の評価に加えて、パンデミックおよびそれに伴う移動制限が、外国人の健康や厚生に与える影響の分析を行った。これらの研究結果は、これら一連の研究は、外国人の医療需要および制度変化の彼らの健康への影響が、日本人のそれと異なるというだけでなく、それぞれの環境に応じて非常に多様であり、彼らの健康を守るために特別な保護が必要な事を示唆している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、一般的に国民よりも脆弱な立場に置かれている外国人の医療需要や健康へのインパクトは、日本人のそれと異なるだけでなく、状況や背景に応じて極めて多様であり、その多様性を考慮した人権保護の必要性を明らかにした事である。また、社会的意義としては、特に、2021年に採択された国連世界観光機関の「旅行者保護に関する国際規定」の策定プロセスにおいて、研究代表者の知見を生かした条文が採用された事で、国際規約を通じた国際的なルール作りを通して、日本だけでなく、国際社会における、災害やパンデミック時における（特に短期滞在の）外国人の保護に貢献できたことである。

研究成果の概要（英文）：This project provides economic and human rights evaluation of past healthcare reforms and aims to unveil problems of current public health policies focusing on the impact on foreigners. Due to the covid-19 pandemic, I also worked on the impact of COVID-19 pandemic and its associated movement restrictions on foreigners' health and welfare at population levels. It is unfortunate that I spent more time working on the latter topic due to the public demand. These studies suggest that health care needs of foreigners are not only different from those of Japanese nationals but also very diverse within, depending on their circumstances. There needs to be special protection to safeguard their health during both emergency and non-emergency situations.

研究分野：医療経済学、人口学

キーワード：健康と人権 人権指標 外国人 観光客 移民 労働衛生環境 女性への暴力 コロナ禍

1. 研究開始当初の背景

日本は、持続可能な開発目標(SDGs)の下、自国の医療制度の強みである(全ての人々が支払い可能な費用で必要な保健サービスを受けるための)ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)をグローバルヘルス政策の要と位置づけ、世界に広げていこうとしている。しかし、現実には、日本人と異なり、移民、難民、観光客などを含む在留外国人の医療サービスへのアクセスには、言語の壁、情報不足、保険未加入など、様々な制限がある。さらに、国民医療費が高騰する中、日本は自己負担割合の増加や病院の統廃合などの医療制度改革を通じて、医療の効率化を実現していく必要があり、在留外国人の医療サービスへのアクセスが、今後、さらに制限される事も懸念される。在留外国人と日本人のどちらもが不便や不安を感じる事のない日常を送れるような医療制度の構築が、経済政策・人権の観点から望まれる。そのためには、在留外国人の医療アクセスを損なう事無く、医療制度改革を実現していく必要がある。

これまで、日本国内の在留外国人の健康状態、医療サービスへのアクセスの研究は、主として地方自治体や研究者による小規模なアンケート調査やマクロレベルの記述統計により行われてきた。これまでの研究は、それぞれのサンプルにおいて、救急医療、HIV/AIDS 治療、母子保健の分野で、外国人の必要な医療へのアクセスが妨げられてきた事を示している。

しかし、これまでの研究からは、そのような実態がある事は分かっても、その事と現在の医療制度の関係も、また、問題の規模も把握できないため、有効な政策に結び付けることは出来なかった。そこで、本研究では、国際移動と医療制度の関係を実証人権法の視点から再検討し、外国人を含む全ての国内居住者の健康を守ると言う人権の視点で、過去の医療制度改革を再評価する。

2. 研究の目的

本研究は、在留外国人の医療アクセスに関する政策的課題のうち、医療アクセスの公平性の問題に答えることを目的としている。具体的には、人口動態統計を利用し、全国一律で実施された制度改革の評価には差分の差分法(DiD)を、県レベルで導入時期に違いのある制度改革の評価には、差分の差分の差分法(DDD)を用いて、これらの医療制度改革が(社会的弱者とされる)外国人と日本人の健康状態や医療アクセスに、どのような影響を与えたのかを分析する。他国でも比較的入手が容易な人口動態統計を利用する事で、UHC を達成している他の先進国(cf. イギリス)でも利用可能な外国人に焦点をあてた医療制度改革の人権評価手法を確立する。

3. 研究の方法

本研究では、まず、1972～2016年の人口動態統計の日本人および外国人の出生票、死亡票、死産票を用いて、2012年における住民基本台帳法の改正に伴う外国人の国民健康保険の加入資格の変化、2008年の後期高齢者医療制度の導入に伴う保険料の変更、1960年代以降の乳幼児医療費助成制度の拡大など過去の主要な制度変更が、全死亡や死因別死亡に与えた影響を、日本人と外国人の間の影響の違いに焦点を当てて分析する。図1・2は、本研究において、日本人と外国人の間の影響の違いを分析するために使用する DiD と DDD の概念を、と の導入を例に、それぞれ、説明した図である。2012年の住民基本台帳法の改正は、全国一律に適用された。この改正は、日本人の国民健康保険加入資格に影響を与えない一方で、外国人の加入資格は緩和され医療サービスへのアクセスが改善した可能性がある(図1)。一方で、乳幼児医療助成制度は、県ごとに導入され、導入された県では、乳児死亡率が改善したと考えられるが、その改善の大きさは、制度改革に関して十分な情報を持たない外国人より、日本人の間でより大きかったかもしれない(図2)。DiD および DDD を用いる事で、医療制度改革ごとに日本人と外国人に与えた影響の差(枠で囲まれて部分)がどの程度であったかを人口レベルで推定し、これらの制度改革の外国人への影響を日本人の影響と別に推計する事ができ、過去の日本の医療制度改革が日本人だけでなく、在日外国人の健康権を侵害する形で行われていなかったかどうかを検証できる。

4. 研究成果

本プロジェクトのテーマは、移民、難民、観光客など様々な人口集団を含む「外国人」に焦点をあてた医療制度改革の人権評価であった。研究期間が、世界的な新型コロナウイルスの流行と重なったこともあり、思うように海外出張が出来ず、海外との共同研究や発表の機会をうまく作れなかった事。また、国連世界観光機関における自身の役割から、新型コロナウイルスとそれに伴う渡航規制・移動制限の影響により、移民や観光客の人権問題に取り組む事が急務となり、コロナ禍における国際移動と医療制度の研究が優先されてしまった事。特に、本プロジェクトのメインの論文である過去の医療制度改革の変化の評価より、コロナ禍における様々な政策が外国人に与える影響に関する論文の出版が優先されてしまった事については反省が残る。今後、メインの論文の出版に向けて取り組んでいきたい。

主な学術雑誌における出版物としては、コロナ禍における観光客や移民に要求するワクチンパスポートに関する倫理指針についての論稿が BMJ Global Health 誌に、ロシアのウクライナ侵攻による国外避難民がウクライナの将来人口と人口構成に与える影響についての論稿が Biodemography and Social Biology 誌に、アメリカにおいて女性の中絶権を認めた 1973 年の「ロー対ウェイド裁判」の判決を最高裁が覆した事件が中絶観光と健康に与える影響の論稿が Biodemography and Social Biology 誌それぞれ掲載されている。また、日本語でも、ESTRELA に「SDGs データエコシステム時代の人口と人権」に関する論稿、現代 QOL 研究に、「緊急事態における迅速評価プロセス」についての抄録が掲載された。

分担著として、災害発生後の日本人と外国人の移住パターンを分析、性的人身売買における実証分析をまとめたものが、それぞれ Springer から、労働衛生・安全分野におけるジェンダー主流化、コロナ禍で観光業が大きく打撃を受けたマイクロネシアの国々における Domestic Violence の状況とそれに対する対応を分析したものが、それぞれ Routledge から刊行された。また、他にも、経済学や人口学における実証人権を利用した評価の手法について、「人権と人権指標としての SDGs 指標」「健康の公平性、正義、権利」" Health and Healthcare as a Human Right" がそれぞれ原書房、東京大学出版会、Edward Elgar から出版されている。

また、Working Paper として

"Travel Restrictions in Japan against China and South Korea in the Middle of the COVID-19 Global Epidemic"

単著 "The Role of International Migration and Restrictions on Their Entry in the Timing of COVID-19's Arrival: Evidence from County-level Data in the United States"

共著 "Does TB Vaccination Reduce COVID-19 Infection?: No Evidence from a Regression Discontinuity Analysis"

を執筆し公開した。それ以外にも Working in progress の論文がいくつかあるため早めに形にしたい。

研究発表としては、WHO Global Health Histories Seminar とノースカロライナ大学チャペルヒル校 & デューク大学主催の Triangle Health Economics Seminar 以降は、コロナ禍に突入したため、University of Padova 主催の Conference on Data-driven Human Rights Research、Conference on Economic History, Comparative Economics and Policy-making in Transition in Memory of Oleh Havrylyshyn, 人口学研究会、International Conference on Sustainable Development、日本子育て学会、国際人口学会、マックスプランク人口学研究所主催の「パンデミックの赤ちゃん？」カンファレンスなどでオンライン発表を行った。日本子育て学会では、パンデミック初期における迅速評価手続き(Rapid Assessment Procedure)の使用についてオンデマンド形式での報告を行った。International Conference on Sustainable Development においては、2017 年以降 "Economics & Demography of Natural Disasters" のセッションを行っているが、新たに "Disease Outbreak" をセッションのタイトルに追加し、世界中から多くの投稿を受け付けた。また、パンデミックが一段落してからは、日本人口学会で対面の発表を行った。これら一連の研究は、外国人の医療需要が、日本人のそれと異なると言うだけでなく、それぞれの環境に応じて非常に多様であり、彼らの健康を守るために特別な保護が必要な事を示唆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 巻 6
2. 論文標題 World Committee on Tourism Ethics (WCTE) recommendation on COVID-19 certificates for international travel	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Global Health	6. 最初と最後の頁 e006651 ~ e006651
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjgh-2021-006651	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 巻 67
2. 論文標題 Russia's invasion of Ukraine and the future demographic crisis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biodemography and Social Biology	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19485565.2022.2061524	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦広明	4. 巻 4
2. 論文標題 緊急事態における迅速評価プロセスと新型コロナウイルス：質的研究者の役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代QOL研究	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoi, M., K. Sato, Y. Tanaka, H. Matsuura, and S. Nagamatsu	4. 巻 41
2. 論文標題 Natural Hazard Information and Migration across Cities: Evidence from the Anticipated Nankai Trough Earthquake	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Population and Environment	6. 最初と最後の頁 452-479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11111-020-00346-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 巻 68
2. 論文標題 Abortion tourism in a post-Roe v. Wade era	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biodemography and Social Biology	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/19485565.2022.2100051	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 Did the COVID-19 Pandemic and Associated Mobility Restrictions Affect Fertility? Preliminary Evidence from the Reported Number of Pregnancies in Japan?
3. 学会等名 Pandemic Babies? The Covid-19 Pandemic and Its Impact on Fertility and Family Dynamics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 The Role of International Migration, Domestic Migration, and Short-term Travel in the Timing of COVID-19's Arrival: Evidence from County-level Data in the United States
3. 学会等名 29th IUSSP International Population Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松浦広明
2. 発表標題 SDGs時代における人口データに基づく人権研究
3. 学会等名 人口学研究会第631回定例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 緊急事態における迅速評価と新型コロナウイルス
3. 学会等名 日本子育て学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 The Role of International Migration and Restrictions on Their Entry in the Timing of COVID-19 's Arrival: Evidence from County-level Data in the United States
3. 学会等名 International Conference on Sustainable Development（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 The Protective Effect of the Constitutional Right to Health during Natural and Man-made Disasters
3. 学会等名 International Conference on Data-driven Human Rights Research（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 Constitutional Social and Environmental Human Rights and Child Health Outcomes in Latin America
3. 学会等名 Triangle Health Economics Seminar（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 Global Health: Where Science Meets Humanity and Social Sciences
3. 学会等名 WHO Global Health Histories Seminar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 Does community resilience mitigate the perceived risk of megathrust earthquakes among Japanese and foreign residents?
3. 学会等名 International Conference on Sustainable Development (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦広明
2. 発表標題 緊急事態における迅速評価と新型コロナウイルス
3. 学会等名 日本子育て学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松浦広明
2. 発表標題 新型コロナウイルス初感染者発見のタイミングにおける国際移民、国内転入者、観光客の役割: アメリカのカウンティ・レベル・データからのエビデンス
3. 学会等名 日本人口学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroaki Matsuura
2. 発表標題 Examining the Interactive Effect of Two Legacies of the Soviet Health System: the Role of Constitutional Right to Health and Universal Health Coverage during Non-emergency and Emergency Situations
3. 学会等名 Conference on Economic History, Comparative Economics and Policy-making in Transition in Memory of Oleh Havrylyshyn (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 8
3. 書名 "Domestic Violence in Micronesian Context: Past and Future Challenges" in "International Responses to Gendered-Based Domestic Violence: Gender-Specific and Socio-Cultural Approaches"	

1. 著者名 松浦広明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 原書房	5. 総ページ数 22
3. 書名 「人権と人権指標としてのSDGs指標」 in 「SDGsの人口学」	

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 14
3. 書名 "Gender Mainstreaming in Occupational Health and Safety: Challenges in the Era of the Sustainable Development Goals" in "Gender and the Sustainable Development Goals: Infrastructure, Empowerment and Education"	

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Edward Elgar Publishing	5. 総ページ数 15
3. 書名 "Health and Healthcare as a Human Right" in Handbook on the Political Economy of Health Systems	

1. 著者名 松浦広明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 25
3. 書名 「健康の公平性、正義、権利」 in 「健康経済学講義：ヒューマン・ケアのための理論と実証」	

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer International Publishing	5. 総ページ数 19
3. 書名 "Level of Disaster Resilience and Migration Patterns in Japanese and Foreign Residents" in "Integrated Research on Disaster Risks: Contributions from the IRDR Young Scientists Programme"	

1. 著者名 Hiroaki Matsuura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 11
3. 書名 "Empirical Studies of Sex Trafficking" in "Encyclopedia of the UN Sustainable Development Goals: Decent Work and Economic Growth"	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------